



進路だより

R2.10.14
第1学年 6号
安古市高校進路指導部

進研模試まで2週間あまりとなりました。7月模試の結果から目標を定め、着々と準備を進めてきた人も多いことでしょう。先日の学年集会の話を受けて11月模試（10/31実施）に向けてぜひ皆さんに知っておいてもらいたいデータを紹介します。

〈すべての人にチャンスあり！〉

この春、安古市高校から国公立大学への現役合格者数は214人でした。この先輩たちのもともとの成績はどうだったのでしょうか。

一般的に1年7月の進研模試の偏差値で見ると、56以上が国公立大学合格の目安、62以上が広島大学合格の目安とされます。現1年生は7月の進研模試で偏差値56以上の人が149人（約47%）を占めていました。するとこの47%の人に国公立合格の可能性があるということでしょうか。いや、そうではありません。先輩たちの結果を見てみましょう。

〈資料〉 R2国公立大学合格者の1年7月時点での成績と大学合格者数

（進研模試の3教科（国・数・英）偏差値）

偏差値帯	～45	45～	50～	56～	62～	68～	計
難関大・難関学部			4	2	7	0	13
広島大	27人	6	11	10	3	0	30
県立広島大	1	3	2	7	0	0	13
広島市立大	0	4	6	4	1	0	15
その他国公立大	8	28	66	38	3	0	143
国公立合格者合計	9	41	89	61	14	0	214

139人

国公立大学合格者のうち約65.0%にあたる139人は、高校スタート時点での偏差値が56に達していませんでした。また、広大合格者の約90.0%にあたる27人は偏差値が62に達していませんでした。しかしこの先輩たちは実際の受験時には合格圏内まで成績を伸ばしていました。このことより、もともとの成績よりはむしろ学習時間や意欲が今後の進路先を決定すると言えます。さらに、国公立大学合格者で7月時点で偏差値56未満の生徒139人のうち133人（95.7%）が11月模試で偏差値をアップさせています。中には偏差値45.5から62.6へアップさせている生徒もいます。これからの成績変動の激しい1年生後半をどう過ごし、成績をアップできるかによってあなたの成績は大きく変化すると言えます。

すべての人に伸びるチャンスと国公立大学合格の可能性がある！

1年生の秋は学習時間に大きく差がつく時期です。じっくり勉強に向き合える10月と11月。それをどのように過ごすかで、自分の可能性やチャンスは大きくも小さくもなります。日々の復習をしましょう。1日30分でも、苦手克服に時間を当てましょう。得意科目の勉強をおろそかにしないようにしましょう。



〈ここから始めよう！〉

さて、「学習意欲」が高まるきっかけの最たるものは、やはり試験です。10/31（土）に進研模試が待っているのです。今から「進研模試 WEEK」と称して取り組んでみましょう。具体的な取組みは、以下の3つです。

- 模擬試験に向けて配付される課題を、いつも以上に自分の力で真剣に取り組む。
 - 模擬試験につながることを意識して、いつも以上に授業に真剣に取り組む。
 - 模擬試験で何としても高得点を取る、と熱い思いを持って最後まで試験と戦う。
- ぜひ、実行してみましょう。そしてこうした取り組みが当たり前に行えるようになれば、必ず成績は上昇していくでしょう。

集中して模試に取り組もう！

鉄則1. 中間考査の復習をし、模試の過去問に取り組む。

鉄則2. 問題をよく読む。

鉄則3. 空欄をつくらない。丁寧に書く。

鉄則4. 見直しをする。（ケアレスミスをなくす）

